

## 安全データシート

### 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	:	フタル酸ジエチル-d <sub>4</sub>
SDS コード	:	NC-07
供給者の会社名称	:	
林純薬工業株式会社		
住所	:	大阪府大阪市中央区内平野町 3 丁目 2 番 12 号
電話番号	:	06-6910-7305
E-mail	:	shiyaku_kikaku@hpc-j.co.jp
URL	:	https://direct.hpc-j.co.jp/
緊急連絡電話番号	:	06-6910-7305
推奨用途	:	試験研究用
使用上の制限	:	試験研究以外の用途には使用しない事。人体又は動物用の医薬品、食品、家庭用品、化粧品等には使用しない事。環境中に使用しない事。

### 2. 危険有害性の要約

#### GHS 分類

物理的危険性	爆発物	区分に該当しない	
	可燃性ガス	区分に該当しない	
	エアゾール	区分に該当しない	
	酸化性ガス	区分に該当しない	
	高压ガス	区分に該当しない	
	引火性液体	区分に該当しない	
	可燃性固体	区分に該当しない	
	自己反応性化学品	区分に該当しない	
	自然発火性液体	区分に該当しない	
	自然発火性固体	区分に該当しない	
	自己発熱性化学品	分類できない	
	水反応可燃性化学品	区分に該当しない	
	酸化性液体	区分に該当しない	
	酸化性固体	区分に該当しない	
	有機過氧化物	区分に該当しない	
	金属腐食性化学品	分類できない	
	鈍性化爆発物	分類できない	
	健康有害性	急性毒性 (経口)	区分に該当しない
		急性毒性 (経皮)	区分に該当しない
		急性毒性 (吸入: 気体)	区分に該当しない
急性毒性 (吸入: 蒸気)		分類できない	
急性毒性 (吸入: 粉じん、ミスト)		区分に該当しない	
皮膚腐食性 / 刺激性		区分 2	
眼に対する重篤な損傷性 / 眼刺激性		区分 2B	
呼吸器感作性		分類できない	
皮膚感作性		区分 1	
生殖細胞変異原性		分類できない	
発がん性		区分に該当しない	

環境有害性	生殖毒性	区分に該当しない
	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分 3 (麻酔作用)
	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分 3 (気道刺激性)
	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分に該当しない
	誤えん有害性	分類できない
	水生環境有害性 短期(急性)	区分 2
	水生環境有害性 長期(慢性)	区分に該当しない
	オゾン層への有害性	分類できない

絵表示  
(GHS JP)



GHS07

注意喚起語 (GHS JP)	: 警告
危険有害性 (GHS JP)	: 皮膚及び眼刺激 (H315+H320) アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ (H317) 呼吸器への刺激のおそれ (H335) 眠気又はめまいのおそれ (H336) 水生生物に毒性 (H401)
注意書き (GHS JP)	
安全対策	: 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。(P261) 取扱い後は手、前腕および顔をよく洗うこと。(P264) 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。(P271) 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。(P272) 環境への放出を避けること。(P273) 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。(P280)
応急措置	: 皮膚に付着した場合: 多量の水で洗うこと。(P302+P352) 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340) 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338) 気分が悪いときは医師に連絡すること。(P312) 皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合: 医師の診察/手当てを受けること。(P333+P313) 眼の刺激が続く場合: 医師の診察/手当てを受けること。(P337+P313) 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。(P362+P364)
保管	: 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。(P403+P233) 施錠して保管すること。(P405)
廃棄	: 内容物/容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。(P501)

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 化学物質

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS RN
			化審法番号	安衛法番号	
フタル酸ジエチル-d4	≥95%	C12D4H10O4	(3)-1301,(7)-705	既存化学物質	93952-12-6

上記濃度又は濃度範囲は、規格値ではありません。  
上記濃度又は濃度範囲に記載の%は、個別表記があるものを除き、全て重量%となります。

## 4. 応急措置

### 応急措置

- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
直ちに医師に診断／手当てを受けること。
- 皮膚に付着した場合 : 汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。  
多量の水と石鹸で優しく洗うこと。  
直ちに医師に診断／手当てを受けること。
- 眼に入った場合 : 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用してい  
て容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
直ちに医師に診断／手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合 : 無理に吐かせないこと。  
口をすすぐこと。  
直ちに医師に診断／手当てを受けること。

## 5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 周辺火災に応じて、適切な消火剤を使用する、水噴霧、泡消火剤、二酸化炭素、  
乾燥粉末消火剤、砂
- 使ってはならない消火剤 : 強い水流は使用しない。
- 火災時の危険有害性分解生成物 : 火災時に刺激性もしくは有毒なフュームまたはガスを発生する。
- 消火方法 : 着火した場合、初期消火は、火元(燃焼源)を断ち、適切な消火剤を用いて一挙に  
消火する。  
周辺火災の場合、移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。  
移動不可能な場合、容器及び周囲の設備等に散水し、冷却する。
- 消火時の保護具 : 消火作業の際は、空気呼吸器を含め防護服(耐熱性)を着用する。

## 6. 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

- 一般的措置 : 立ち入る前に、密閉された場所を換気する。  
関係者以外の立ち入りを禁止する。  
直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。  
作業の際には、吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、必ず適切な  
保護具を着用し、風下で作業行わない。

### 環境に対する注意事項

- 環境に対する注意事項 : 環境への放出を避けること。  
下水道や公共用水域への侵入を防ぐ。

### 封じ込め及び浄化の方法及び機材

- 浄化方法 : 漏出は、吸収剤を使用してできるだけ素早く回収する。  
できるだけ液体漏出物は密閉容器に回収する。  
回収跡は多量の水で洗い流す。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

- 技術的対策 : 吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用して作業  
する。  
漏れ、あふれ、飛散しないように取扱い、ミスト、蒸気の発生を少なくし、換気を十  
分にする。

- 安全取扱注意事項 : この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。  
 取扱い後はよく手を洗いうがいをする事。  
 作業所の十分な換気を確保する。  
 接触、吸入又は飲み込まないこと。
- 接触回避 : 長時間または反復の暴露を避ける。
- 保管**
- 安全な保管条件 : 施錠して保管すること。  
 直射日光を避け、換気の良い場所に保管する。容器を密閉し、火気、熱源より遠ざける。
- 安全な容器包装材料 : 遮光した気密容器。
- 技術的対策 : 適用法令を遵守する。
- 保管温度 : 冷蔵保管: 2~10℃

## 8. ばく露防止及び保護措置

ばく露限界値	
フタル酸ジエチル	
許容濃度(産衛学会)	5mg/m <sup>3</sup>
許容濃度(ACGIH)	TWA 5 mg/m <sup>3</sup> , STEL -

- 設備対策 : 取扱場所での発生源の密閉化、または局所排気装置、全体換気装置の設置。取扱い場所の近くに安全シャワー、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

### 保護具

- 皮膚及び身体の保護具 : 不浸透性前掛け、不浸透性作業衣、不浸透性長靴
- 眼の保護具 : 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)
- 手の保護具 : 不浸透性保護手袋
- 呼吸用保護具 : 有機ガス用防毒マスク

## 9. 物理的及び化学的性質

- 物理状態 : 液体
- 外観 : 液体
- 色 : 無色
- 臭い : 弱い特異臭
- pH : データなし
- 融点 : データなし
- 凝固点 : データなし
- 沸点 : データなし
- 引火点 : 117 ° C (ノンラベル体として、密閉式)
- 自然発火点 : データなし
- 分解温度 : データなし
- 可燃性 : データなし
- 蒸気圧 : データなし
- 相対密度 : データなし
- 密度 : 1.232 g/cm<sup>3</sup>
- 相対ガス密度 : データなし
- 溶解度 : データなし
- n-オクタノール/水分配係数(Log Pow) : データなし
- 爆発限界 (vol %) : データなし
- 動粘性率 : データなし
- 粒子特性 : データなし

## 10. 安定性及び反応性

反応性	: データなし
化学的安定性	: 通常の取扱い条件では安定である。
危険有害反応可能性	: 酸、塩基、酸化剤、還元剤と反応する。
避けるべき条件	: 日光、熱、火花、裸火、静電気等の発火源。酸、塩基、酸化剤、還元剤との接触。
混触危険物質	: 酸、塩基、酸化剤、還元剤
危険有害な分解生成物	: データなし

## 11. 有害性情報

フタル酸ジエチル	
急性毒性(経口)	ラット LD50 値: 8600mg/kg(環境省リスク評価第 3 巻, 2004、NTP TR429, 1995)、9200-9500mg/kg(CICAD 52, 2003)、9500-31000mg/kg(ACGIH 7th, 2001、産衛学会勧告, 1995)に基づき、区分外とした。
急性毒性(経皮)	ラット LD50 値: >22400mg/kg および >11200mg/kg(IUCLID, 2000)に基づき、区分外とした。
急性毒性(吸入:気体)	GHS の定義による液体である。
急性毒性(吸入:蒸気)	データなし。
急性毒性(吸入:粉じん、ミスト)	PATY(4th, 1994)のラットを用いた試験において 511ppm の 6 時間暴露(4 時間換算値 6.95mg/L)で死亡が認められなかったとの記述から、区分外とした。
急性毒性(吸入:ミスト)	データなし
皮膚腐食性/刺激性	NTP TR429(1995)および PATY(4th, 1994)にはヒトの皮膚を刺激しないと記述、NTP TR429(1995)、ATSDR(1995)および PATY(4th, 1994)には動物を用いた試験における刺激性は軽微であるとの記述があるが、環境省リスク評価第 3 巻(2004)および CICAD 52(2003)のヒトを対象としたパッチテストで 143 例中 2 例に刺激性が認められたとの記述、環境省リスク評価第 3 巻(2004)、産衛学会勧告(1995)の皮膚への付着により皮膚炎および湿疹が認められたとの記述から、ごく一部のヒトに対してではあるが皮膚刺激性があると判断し、区分 2 とした。
眼に対する重篤な損傷性/刺激性	CICAD 52(2003)にウサギの眼に適用した試験において、刺激性はなかったとの記述、CICAD 52(2003)および ATSDR(1995)にウサギの眼にごく軽度の刺激性が認められとの記述があるが、NTP TR429(1995)のウサギの眼を軽度に刺激するとの記述およびヒトの眼に刺激性があったとの記述から、区分 2B とした。
呼吸器感受性	データなし。
皮膚感受性	IUCLID(2000)または BUA 104(1994)にはモルモットを用いた Buehler test、Draize test、Freund's complete adjuvant test、maximization test および open epicutaneous test で感受性は認められなかったとの記述、環境省リスク評価第 3 巻(2004)、CICAD 52(2003)、ATSDR(1995)にはヒトを対象としたパッチテストでアレルギー反応は認められなかったとの記述があり、PATY(4th, 1994)では感受性はないと記載されているが、環境省リスク評価第 3 巻(2004)、CICAD 52(2003)および ATSDR(1995)の記述によると、別一の機関によるパッチテストにおいてそれぞれ 1 例でアレルギー反応が認められていることから、区分 1 とした。
生殖細胞変異原性	in vitro 試験のデータしかないため分類できない。
発がん性	ACGIH で A4(ACGIH 7th, 2001)、EPA で D(IRIS, 2005)に分類されていることから、区分外とした。
生殖毒性	環境省リスク評価第 3 巻(2004)、CICAD 52(2003)、ACGIH(7th, 2001)、NTP TR429(1995)、産衛学会勧告(1995)、ATSDR(1995)のラットおよびマウスを用いた妊娠中経口投与試験および 2 世代繁殖性試験において親動物に一般毒性が認められる用量でも明確な生殖毒性が認められなかったとの記述から、区分外とした。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	環境省リスク評価第 3 巻(2004)、ACGIH(7th, 2001)、産衛学会勧告(1995)、PATY(4th, 1994)の蒸気が気道を刺激するとの記述、環境省リスク評価第 3 巻(2004)の吸入すると眩暈、感覚鈍麻を生じるとの記述、PATY(4th, 1994)の中樞神経を抑制する可能性があるとの記述から、区分 3(気道刺激性、麻酔作用)とした。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	環境省リスク評価第 3 巻(2004)、CICAD 52(2003)、ACGIH(7th, 2001)、NTP TR429(1995)、ATSDR(1995)、IRIS(2005)のラットまたはマウスを用いた経口または経皮投与試験において区分 2 のガイダンス値範囲を超える高用量でも毒性作用が認められなかったとの記述から、区分外とした。

フタル酸ジエチル	
誤えん有害性	データなし。

## 12. 環境影響情報

フタル酸ジエチル	
水生環境有害性 短期(急性)	魚類(ニジマス)96 時間 LC50 = 1.2 mg/L(環境省リスク評価第 3 巻: 2004)であることから、区分 2 とした。
水生環境有害性 長期(慢性)	急速分解性があり(良分解性、BOD による平均分解度: 88% (化審法 DB: 1999))、甲殻類(オオシジミ)の 21 日間 NOEC(繁殖阻害)= 3.8 mg/L(環境省リスク評価第 3 巻: 2004)、藻類(ムレミズキモ)の 72 時間 EC10(生長速度)= 22.9 mg/L(EPA ACQUIRE: 2018、Jonsson,S. et al.(2003))であることから、区分外とした。
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壌中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

## 13. 廃棄上の注意

- 化学品(残余廃棄物) : 都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に、内容を明示して処理を委託する。
- 汚染容器及び包装 : 容器の内容物を完全に除去してから廃棄する。  
空容器は地域の条例に準拠してリサイクル、再利用または廃棄する必要がある。

## 14. 輸送上の注意

### 国際規制

#### 海上輸送(IMDG)

- 国連番号 (IMDG) : 非該当  
正式品名 (IMDG) : 非該当  
容器等級(IMDG) : 非該当  
輸送危険物分類 (IMDG) : 非該当

#### 航空輸送(IATA)

- 国連番号 (IATA) : 非該当  
正式品名 (IATA) : 非該当  
容器等級 (IATA) : 非該当  
輸送危険物分類 (IATA) : 非該当

#### 海洋汚染物質

- : 非該当

### 国内規制

- 海上規制情報 : 非該当  
航空規制情報 : 非該当

#### 特別な輸送上の注意

- : 運搬に際しては、容器の転倒、損傷、落下、荷崩れ等しないように積み込み、漏出のないことを確認する。

## 15. 適用法令

### 国内法令

- 化審法 : 優先評価化学物質(法第2条第5項)
- 労働安全衛生法 : 名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号別表第9)  
名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9)  
フタル酸ジエチル(政令番号: 478)

毒物及び劇物取締法	:	非該当
消防法	:	第4類引火性液体、第三石油類非水溶性液体(法第2条第7項危険物別表第1)
海洋汚染防止法	:	有害液体物質(Y類物質)(施行令別表第1)
外国為替及び外国貿易法	:	輸出貿易管理令別表第1の2項 輸出貿易管理令別表第1の16の項
化学物質排出把握管理促進法(PRTR 法)	:	第2種指定化学物質(法第2条第3項、施行令第2条別表第2) フタル酸ジエチル(管理番号: 353)(100%)

## 16. その他の情報

参考文献	:	17423 の化学商品(化学工業日報社) 国際化学物質安全性カード(ICSC) 独立行政法人 製品評価技術基盤機構(NITE) ERG2020 版 緊急時応急措置指針(日本規格協会)
その他の情報	:	この SDS は林純薬工業株式会社の著作物です。当該製品の化学物質製品を取り扱う事業者に対して提供するものであり、安全を保証するものではありません。現時点における該当化学物質の情報を全て検証しているわけではありません。当該化学物質について常に未知の危険性が存在するという認識で、製品運搬・開封から廃棄に至るまで、安全を最優先して使用者自己の責任においてご使用下さい。当該化学物質を使用する際は、使用者自ら安全情報を収集すると共に使用される場所・機関・国などの、法規制等については使用者自ら調査し最優先させてください。国または地方の規制についての調査は、当社としては行いかねますので、この問題については使用者の責任で処理願います。当該物質の日本語による SDS と他国言語にて翻訳された SDS が存在する場合、内容の相違があるなしに関わらず日本語で記述された文書が優先され他国言語による文書は参考文書とします。